



Adult only

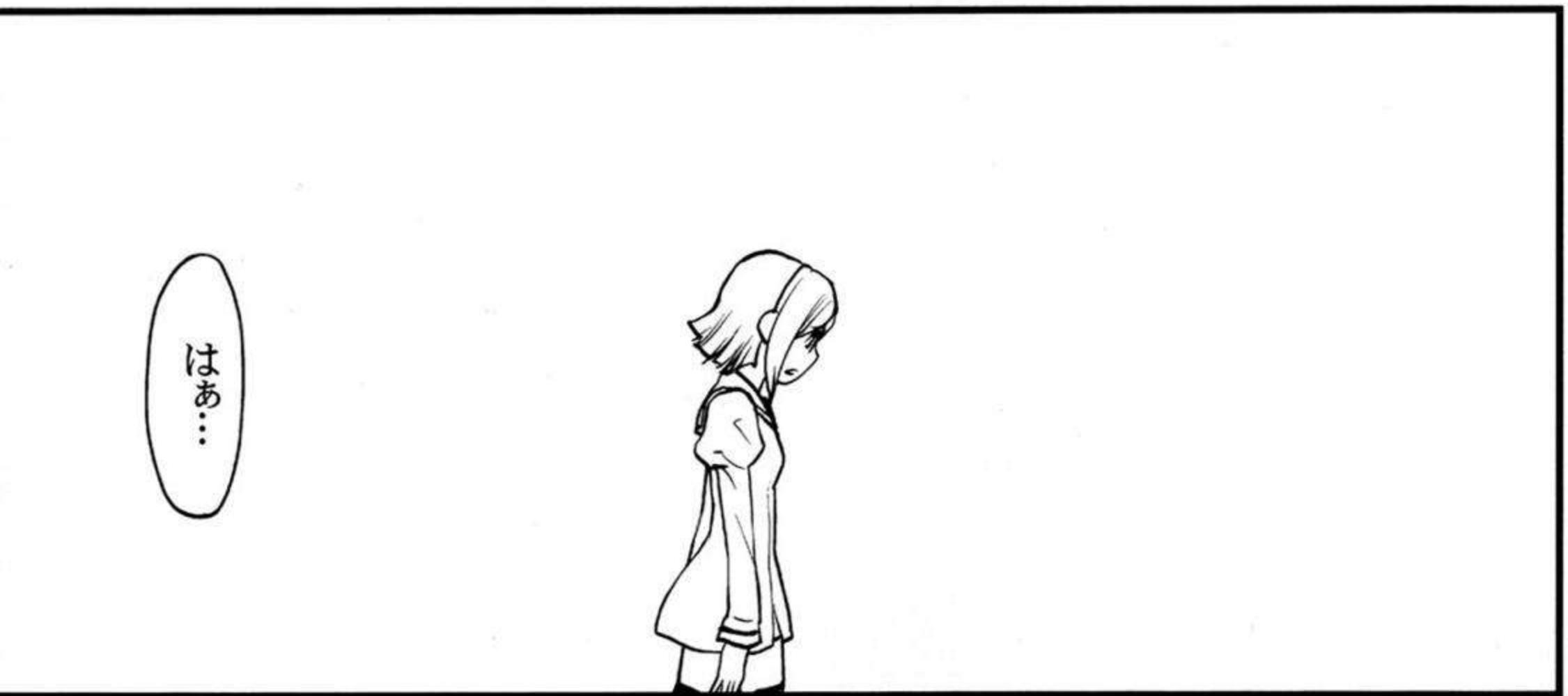
ガンダムビルドファイターズ  
ラルの獲物  
アダルト専用





# 目次

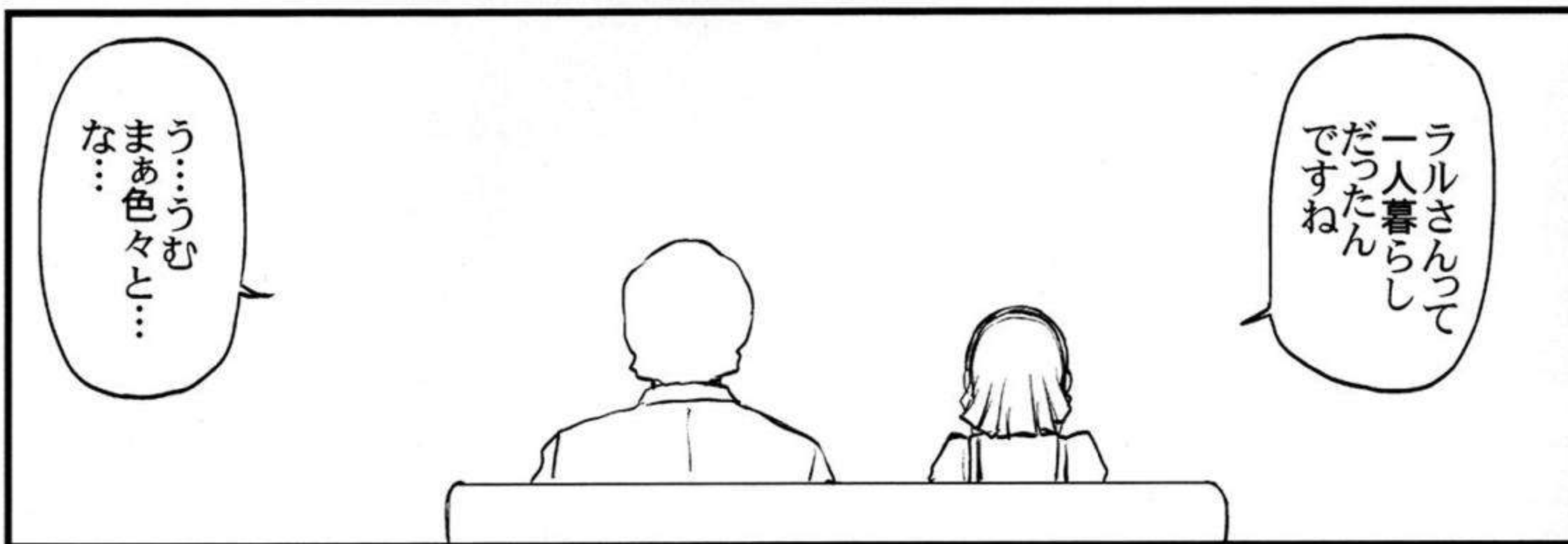
表紙	イラストレーション	流一本	
中扉	イラストレーション	流一本	
目次			2
こみっく 超次元伝説ラル？ (ガンダムビルドファイターズ)		流一本	3
SS どこまででも…… (ガンダムビルドファイターズ)		白朧	19
奥付			



ラルさん

どうしたんだねチナくん？





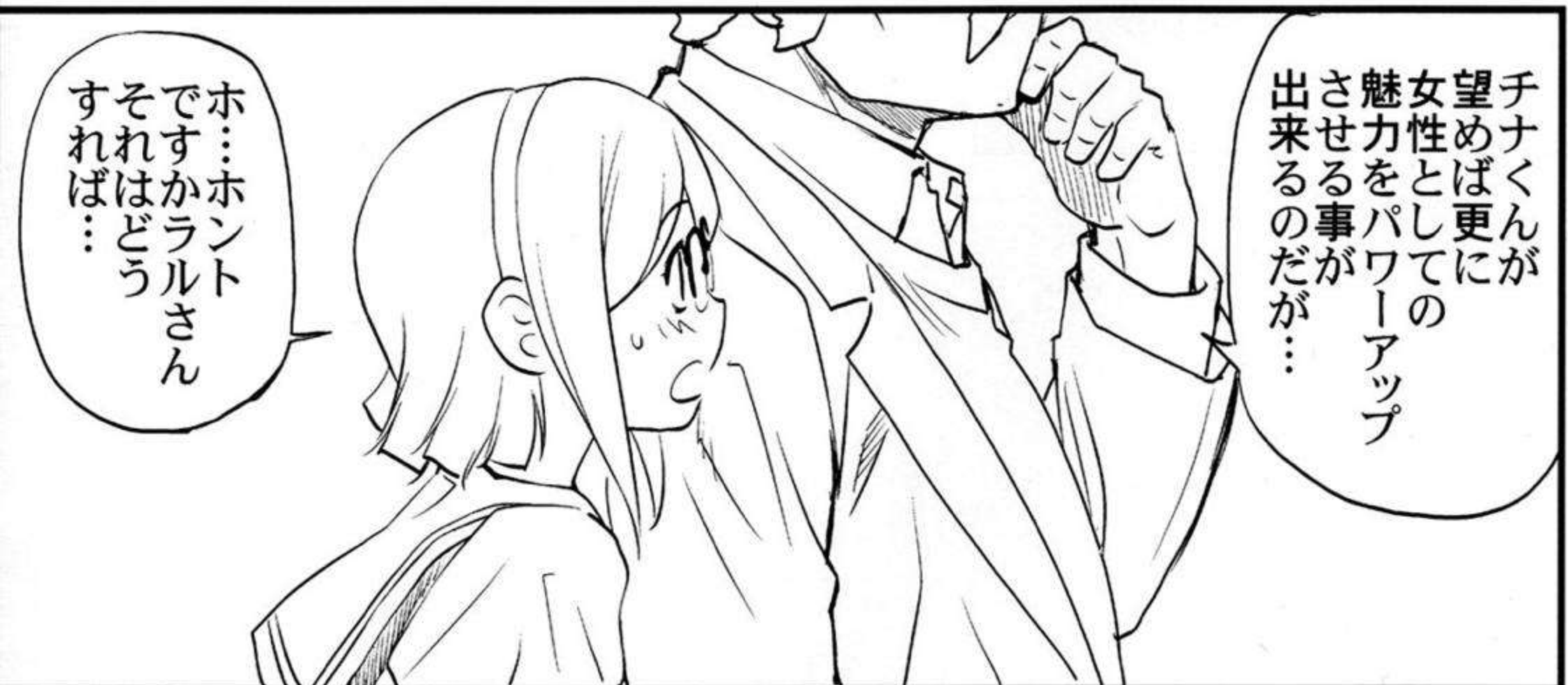


い…いや  
そんな事は  
ない…が…

アムロの  
○は…



私…  
そんなに  
魅力ない  
ですか？



チナくんが  
望めば更に  
女性としての  
魅力のパワーアップ  
させる事が  
出来るのだが…

ホ…ホント  
ですかラルさん  
それはどう  
すれば…



イオリくんが  
その気になつて  
くれるなら  
何だつて！

やつ…  
やります！



私の言う事  
には絶対  
従がうんだ

その覚悟は  
あるかね！？



あ…あの

ホントにこんな  
格好しなきゃ  
ダメなんですか？



何を恥かし  
がつてるんだ

そんな事では  
先が思いやら  
れるな

で…でも

っほ

もじ



もじ

私を信じて  
さつき言った  
通りここに  
座りなさい

タイム  
タイム

はい…

はい…

し…失礼  
しま…す

3.0  
3.0

おお！

この  
感触！











あっ

あ

ダメで...す  
ラル...さん

だ...だめ

あっ

あっ



アア

んはあ♡

アア

そんな...に  
したら...

アアアアアア



はっん

あん♡

アア

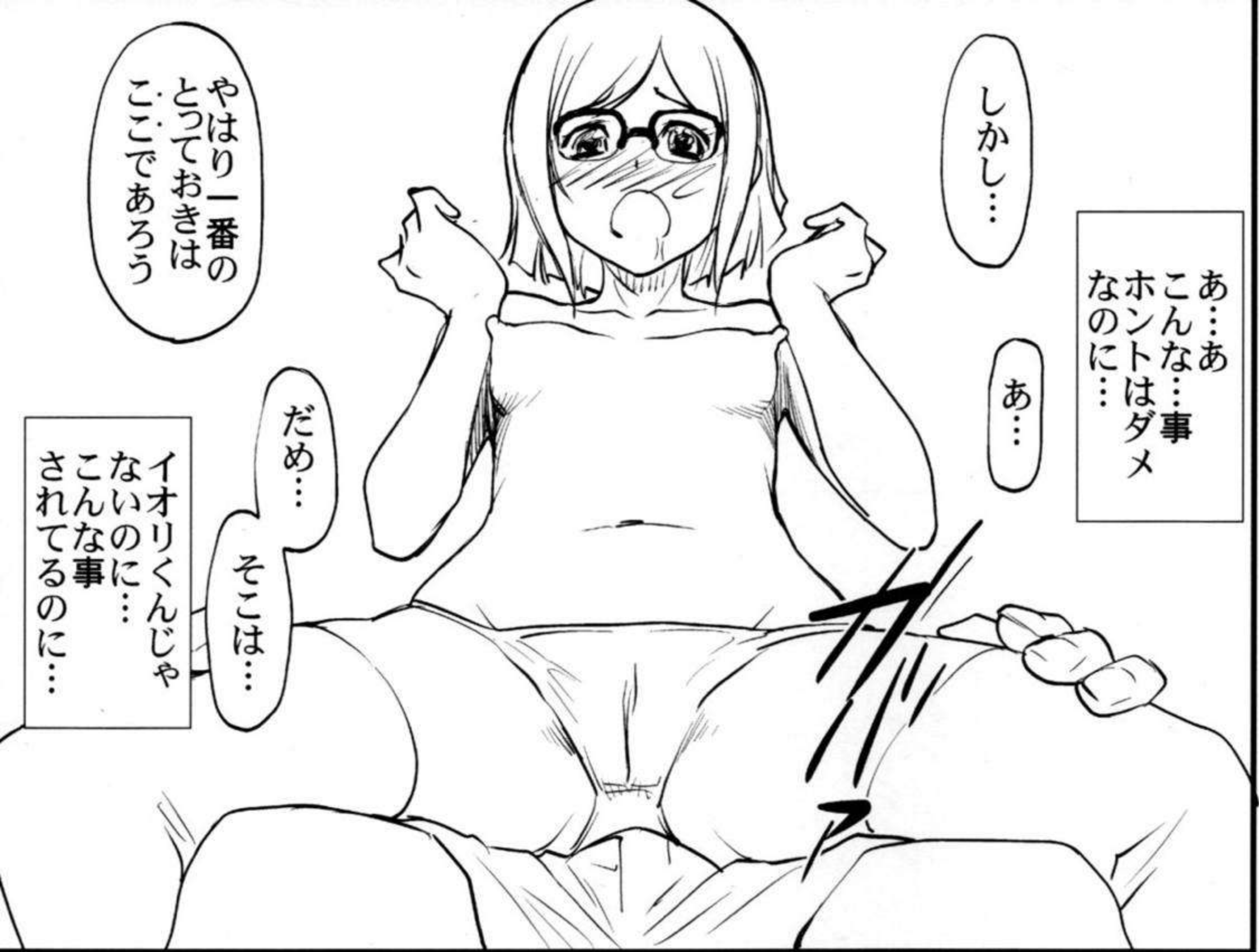


ほほお  
これは見事な  
勃起ちくびだ

い...  
いやあ...

これだけでも  
セイくんにも  
見せつけられ  
たまらず  
しやぶり  
ついてくるぞ





あ…あ  
こんな…事  
ホントはダメ  
なのに…

しかし…

あ…

やはり一番の  
とっておきは  
ここであろう

だめ…

そこは…

イオリくんじゃ  
ないのに…  
こんな事  
されてるのに…



はあん♡

あん♡

気持ち良すぎて  
わかかわかんなく  
なってるぅ♡

ああ〜♡



どれ  
失礼するよ  
チナくん

あっ

やっ



は…ん

ああ♡

なんだ  
もうすっかり  
ぐしょぐしょでは  
ないか









おおだ!  
それだ!

んふ♡

チナくんの  
ひよとこフエラ  
ポイント  
高いぞ!

んふ♡

んふ♡

んふ...

んふ♡

まだまだ  
もつとチナくんの  
可能性を  
引き出すぞ!



あ〜♡

ああ♡

あ〜♡

んほおお

おおお♡

いいぞその  
アへ顔と  
下品なあえぎ声  
セイくんのち●ぽも  
驚掴みだ!





も...もうダメえ!

ハアア  
ハアア

おち●ちん  
ラルさんの  
おち●ちん  
ちようだい

J C 処女ま●こで  
ズポズポして  
ください!



セイくん  
なくて  
いいの  
かい?

いいの  
お  
ラル  
さんの  
のが  
欲しい  
の!

ん  
ああ  
♡

おち●  
ぽ  
キタ  
あ♡



かわ  
い  
だい  
メス  
犬

ん  
ふう  
♡



アミ♡

アミ♡

ちゅ...

ち●ぽ♡  
おち●ぽ♡  
すごい♡

初めてなのに  
おま●こ  
気持ちいい♡

これは...

思った以上の...  
の...

んふおお♡

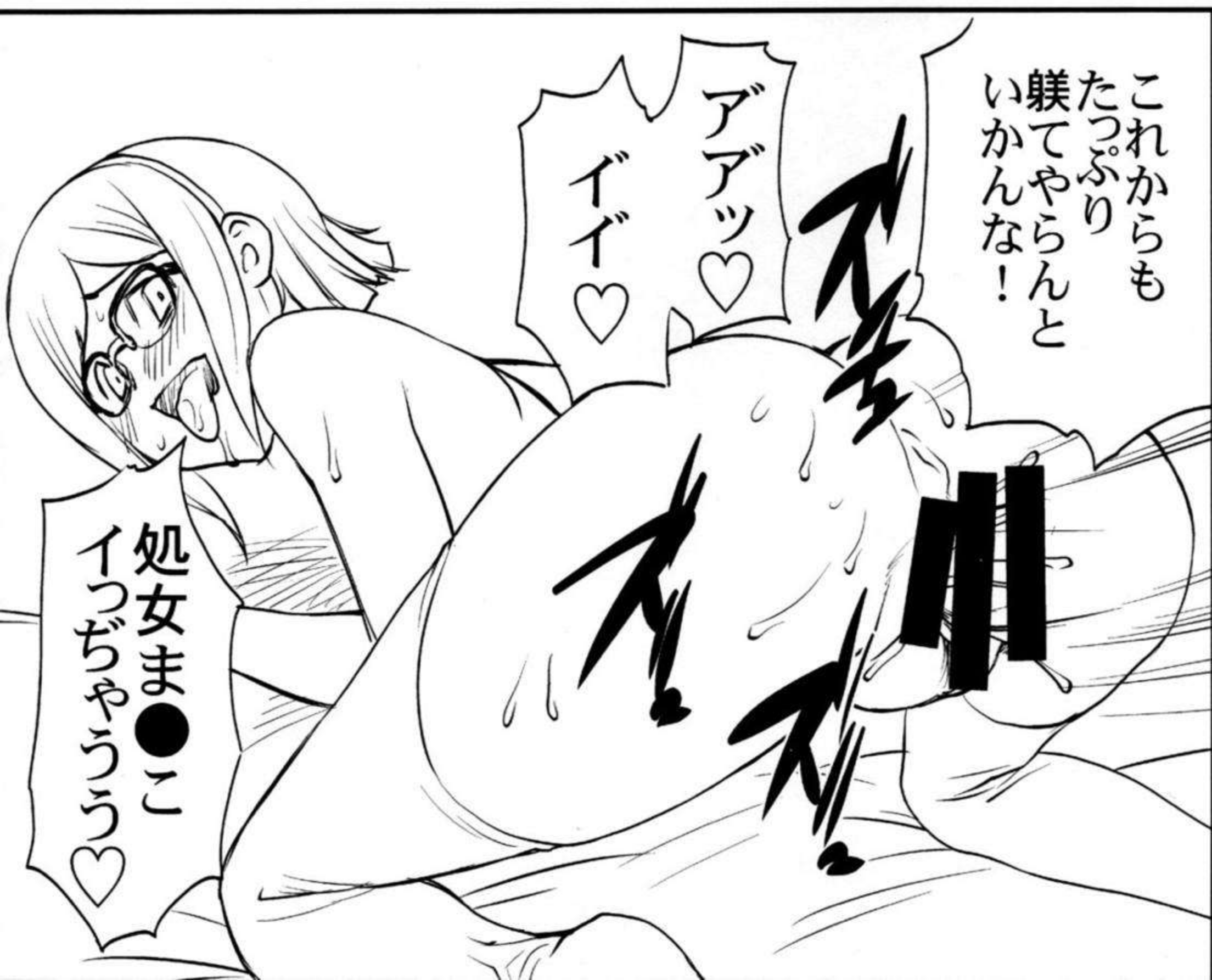
アッアッアッ

アッアッアッ











あはああん♡♡



あ♡

あ♡♡

まだまだ  
へばるには  
早いぞ  
チナくん





委員長！



そ…その…

これから  
僕の部屋で  
ガンプラでも  
作らない？



ゴメンね

チナこれから  
とつても大事な  
用事があるの

そ…そう





イオリくんってば  
私を見てて  
勃起ばかり  
してるんですよ



それは  
よかつた

しかし  
そうなる  
私の役目  
は  
終わりが  
かね

ああん  
ダメですう

ラルおじさまには  
もつともつと  
色んな事  
教えてもら  
うん  
だからあ  
♡

彼氏持ちの  
現役JCを妊  
ませたんだ  
から  
最後まで責  
任  
とつて下  
さいね  
♡









「わかった」

アイラがつかないだ手に力を込めると、レイジはリモコンのスイッチを入れた。

「ああッ」

軀の内側で、ローターが振動しだした。子宮口にぴったりと張り付いているから、子宮ごと軀全体を震わせる。家に行つて、早くレイジと交わりたいという意味だったのだが、レイジは他の意味にとつたようだった。

「……くっ」

子宮が疼いて堪らない上に、その振動はクリトリスの刺激も増幅させてくる。

剥けたばかりの陰核にその刺激に荷が重すぎた。

「あつ、ち、違つ、や、やだつ、と……止め、て……」

アイラの懇願に振動は止まり、ほつとして緊張を解くと子宮の奥にあったローターが下に落ちたのを感じる。異物が入っていたので力が込もっていたのだろう。奥にあった状態より幾分マシになった。快楽に堕ちるのを我慢して、汗をにじませてるアイラにレイジは見蕩れていた。恍惚とした表情が蠱惑的で、アイラが快感に溺れてるところが見取れた。

無人の家までたどり着き、鍵を開け、玄関をくぐる。

ロングブーツを脱ぎ、足を上げようとするとローターの位置がずれ、体勢が変わった為にクリップが陰核に刺激を与える。

「あつ、ああッ！」

「どうした？」

「クリップが、こ、擦れて……」

アイラは、レイジに支えられたまま、目を閉じ小さな顎を上げた状態で硬直した。

内股に女性器から溢れた愛液が滴ってくる。しばらくそのままじっとしていても、しばしの硬直の後、息をつけるようになった。

家までという条件だったので、自分でスカートの中に手を入れ、蜜に濡れた装飾に彩られたクリップを取り外す。そのまま持つのは躊躇われたので、ハンカチ

に包んでしまう。

「もしかして、いった？」

その様子をジツと見守っていたレイジが問いかけてくる。

アイラは、その問いに頭を振った。

「いつてない。気持ちいいけど、イけなかった。レイジのじゃないと……、わ、私……」

支えられた状態から、ぐつと体重を預けてくる。

「レイジが好き……、レイジがいいの……」

アイラはすっかり発情してらしく、豊満な乳房をレイジの体に擦り寄せるように甘えてくる。高い体温と発情した甘い匂いが纏わりついてくる。

服越しとはいえ、体に豊満な肢体を押し付けられて心地良い。

アイラがゆっくりと唇を合わせてくる。唇の先だけの軽いキスから、徐々に探り合うキスへと変わっていき、アイラはキスの甘さに酔っていく。

「ちゅっ、んっ……、くちゅっ、んっ、んんっ」

舌を絡め唾液をやり取りするような深いキスを続けていると、器具によって刺激を高められた軀がいつそう熱く火照ってきて、蜜液が滴り落ちる。舌が痺れるほどキスをしてから、唇を離す。

誰も居ない居間までが我慢の限界だった。レイジは柵から赤いリボンを取り出した。

「縛ってくれる？」

「綺麗なアイラを見てみたい」

レイジに言われると何もかもが嬉しかった。

アイラはゆっくりを白いワンピースをはだけてブラジャーを外すと、豊満な胸乳がこぼれ落ちる。真っ白な肌に赤いリボンをかけると、どれほど映えるだろうか。

「縛るぞ」

「うん……」



はだけた服から溢れた乳房の前後にリボンをかけ、乳房の真ん中で交差させてきつく引つ張る伸縮性のないリボンが、引つ張るたびに手元で伸びる感じがするのは、柔肉にリボンが食い込んでるからだ。蝶々結びでリボンを止めると、根を縛られた乳房はいっそう大きく突き出した。遊びみたいな縛りだが、赤いリボンで飾られた胸乳は可愛らしく、そしてエロティックだった。

「痛くないか？」

「だ、大丈夫」

痛くなかったが、縛られてる圧迫感があった。レイジに自分の乳房を飾り付けられて、なぜかとても嬉しかった。内側が熱く疼き、アイラは両手で軽く乳房を揺さぶってみた。

「手は、縛らないの？」

体が飾り付けられて、そっと飾り付けてほしいと思い始めた。

「オナニーしてみて？」

思い掛けないレイジの命令に、ためらいながらもゆっくりと頷く。レイジに命令されると嬉しく感じてしまう自分に驚いてしまう。大好きなレイジが見ている、自分のオナニーを見られてしまうと思うと、下腹が甘く疼いてくる。

ひんやりとした床に臀部を落ち着け、膝をゆっくりと大きく開いていく。

帰り道の羞恥プレイで、発情しきった秘部は十分に蕩けていた。

「あつ……、なんか、恥ずかしい……。うっ、ううっ」

動きにくい下肢を叱咤しながら無理に膝を開くと、羞恥のあまりか涙が頬をつたう。

「やめるか？」

「ち、違う……。の。レイジには、私の全部見て欲しいから。足が、う、動かなくて……っ」

さらに膝を開こうとするが、やはり足は動かなかった。

ゆっくりとレイジの手が、アイラの乳房を覆う

「あうっ」

手からレイジの体温を感じた途端に乳首が硬くなってくる。乳首から甘い痺れ

が全身に広がっていく。

（躰が、レイジの精液を欲しがってる）

乳房は敏感なところだが、リボンのせいで感覚が鋭敏になっていて、レイジが揉んだり乳首を弄ったりするだけで、女性器から愛液が溢れてくる。アイラは上半身をくねらせながら、レイジを受け入れる為に下肢をゆっくりと開いた。そして、スカートを捲くり上げて秘部を晒す。M字開脚で大きく開いた大腿の間に、秘部が興奮して濡れている。

「うッ」

アイラの痴態を目の当たりにして、レイジは息を呑んだ。

アダルトグッズで刺激された陰核は、赤く腫れ上がったように肥大化している。

「じゃあ……、するね」

アイラの右手が秘部に伸びる。人差し指と中指で大陰唇ごと花びらを開くと、みっしりと合わさった膣壁が覗いて、内部が少し見えてくる。そして二本の指を出し入れして、息を弾ませはじめた。

「あつ、ああつ、んっ……。んんッ！」

指先で秘部を弄りながら、アイラの視線はレイジの股間に注がれている。舌先で唇を舐めているのは、ペニスが欲しくて仕方なくなっているからだろう。

「んっ、はっ、はあつ……。んッ、レ、レイジのが……。ほ、欲しいッ！」

レイジは焦らすように、用意してあったパイプをアイラの目の前に掲げる。

「コレ、入れるぜ」

本当はレイジの熱いペニスが欲しかったのだが、飢え極まった躰に入れて欲しかった。大股開きで自慰に耽っているアイラに、パイプを持たせた。

「い、入れるッ！ 入れるのッ」

満足出来ないと感じつつも、レイジの指示に従ってしまう。パイプを持ったアイラは、躊躇いながらも、膣に挿入した。

「あつ、や、やだッ。冷たい……。ひゃうんッ」

ペニスを模してはいるものの、本来のペニスにはない周りの粒が、膣壁を巻き込みながら沈み込んでいく。



「あつ、あああつ、……は、恥ずかしい。い、いや……いやああッ」

アイラは、羞恥に顔を歪めながらバイブを操作した。

「い、いや、こんなの、いやあ。レ、レイジのが、いいのに……」

バイブはゆっくりとアイラの女性器に沈んでいく。ひんやりとしている異物が、みっしりと合わさった褌をかき分けるようにして入っていき、やがて先端が子宮口に触れた。

「奥まで、は、入ったよ。抜いて、いい？」

「ああ」

レイジはアイラの目の前でズボンのファスナーを下ろし、ペニスを取り出した。たくましく太くて反り返っている。レイジのペニスを舐めたくて喉が鳴ってしまった。

レイジは、逞しい男根をこすりながら、見せびらかすようにしてくる。

「俺のコレ、欲しくない？」

「ほ、欲しいの。レイジの意地悪ッ！ レイジのペニスの方がいいのおッ」

レイジは欲望を吐き出したアイラから、バイブを強引に引き抜いた。

「ああッ！」

抜いた時に軽く達したのか、アイラの顔が蕩ける。レイジは、蕩け切った女性器に男性器をあてがい、ゆっくりと挿入していく。

「あつ、レ、レイジいッ！」

正常位でイラの蕩けた顔を見ながらドンドンさしこんでいく。アイラの膈内は硬い感触がなくなって、柔らかく包み込むようにレイジのペニスを迎え入れる。

それでいて膈襞がペニスをざらつくように締め付けてくる。熱れた躰に溺れそうだった。レイジのペニスを膈内で包み、子宮に何度も受け入れた精液が女の躰を熱れさせていったのだ。子宮口を亀頭で叩くと、さらに粘液が溢れてきて、アイラの顔をエロティックに彩らせる。

「ああッ、レイジッ」

膈奥を刺激しやすいように、勢いをつけて突き入れるために、ゆっくりと引いた時に、いきなりアイラが痙攣を始めた。

「だ、だめっ、ああっ、と、溶けるうッ！」

亀頭のカリが膈襞の中央に引っ掛けながら、ゆっくり引き抜かれる時に粘液が溢れんばかりに分泌され、濃密な甘い快感がアイラの脳内に直撃する。

「レ、レイジ、き、気持ち、いいッ、よおッ！」

絶頂の前触れとして、脳裏で奇妙な光が襲いかかってアイラの視界を蹂躪する。「もつと、もつとしてっ、あああ、溶けちゃうッ」

「アイラっ、もつと、もつとだッ」

躰の震えを抑えながら、レイジの背中に両手を回し、下肢を彼の腰にホールドする。腰を揺ると陰毛がクリトリスを擦り快感を助長させる。レイジが下肢を両肩の上に抱え上げると、本格的に律動を始めた。二人の躰に火が点いた様に激しさが増していく。

腰を高く揚げて男根を受け入れる屈曲位は、下腹が圧迫される苦しい姿勢が子宮の形をも変形させより快感を生み出していく。

「あつ、ああああッ、あーッ」

亀頭が膈奥深く沈む時の、重く躰の芯に響く子宮の快感。亀頭が膈襞を掻きむしって、蕩けるような甘い快感。レイジの下腹部で秘芽が圧迫される痺れるような快感が雪崩のごとく襲ってくる。

「だめえっ、ああッ、レイジ、……あああつ、あああーッ」

視界がモノクロの様に見える、代わりに瞬くような光が踊り始めた。

「うッ、ア、アイラ、……うううッ」

レイジは射精寸前だった。アイラの膈襞は抜き差しを繰り返すたびに、肉茎に絡みつき、精液を貪り吸うかのように締め付けてくる。

「も、もう、イキそうッ」

リボンで飾られた乳房が心地よさげに揺れ、普段のクールな貌が淫蕩に歪む。

「子宮がッ、あうっ、あああ……、熱いいッ！」

溢れてくる粘液が、膈内に収まりきらずどんどん垂れ流されて、結合部が粘ついた音を立てる。レイジが止めのように突き上げた時に、射精が始まった。ドブッ！ ドブッ！



「うっ！」

「あああああッ、イクー！」

アイラの躰が絶頂に襲われ痙攣を始める。膣壁が蠕動して精液を吸い込もうとしている。高く上げていた腰がより迫り上げて精液を零すまいと膣口が締まる。膣壁も伸縮し、精液を搾り取るように締め上げてくる。

「レイジ、だめえ、か、感じ過ぎちゃうー！」

支給内壁に熱い精液が染みていき、精液の蠢く感触がはっきりと感じられた。

「こ、怖い！」

イカされ続けることに未知の恐怖を抱き、体を支えていた手を必死に伸ばすと、レイジが手を捕まえ握り返してきた。その手の感触に安心して、緊張と恐怖は消えていった。

その代わり、ふんわり包み込まれるような優しく暖かい快感がアイラを抱き包む。意識が沈んでいき、体から力が抜けて失神する。

レイジは、アイラが失神したので、肢体をゆっくり離してアイラの顔を覗き込む。アイラの貌は涙と唾液などの体液で汚れていたが、それすらも気にならないほど綺麗だと感じた。しばらくすると、アイラの意識が戻り、恥ずかしそうに両手で顔を覆ってしまう。

「レイジ」

「ん？」

両の手で顔を覆ったまま、アイラが言葉を紡ぐ。

「私、レイジいないと生きられない、何があるうとレイジに着いて行く」

終幕

## あとがき 代りのスタッフの日常つーか、グチ

- くろうさぎ 毎度お買い上げありがとうございます。  
白朧 毎回毎回ギリギリですが、今回は2期も決定したGBFですよ。  
くろうさぎ ガンダムバトルファイト？ 頭部破壊で失格とか。  
白朧 それは、違うファイトだな、あながち間違っていないけど。  
くろうさぎ フラモ狂四郎？  
白朧 違うが、違うとも言い難いな  
くろうさぎ 表紙の後ろの人が存在感あいまくいなんだが。  
白朧 ラルさんです。このアニメのキーキャラだよ。  
くろうさぎ わし、最近のアニメわからんし。妖怪が流行ってるんだろ？  
白朧 アルドノア・ゼロのアセイラム姫が市民に陵辱される薄い本はないのかな？  
くろうさぎ 何を言ってるのかね？  
白朧 ロボットがぶっ飛んでて面白いぞ、アシュラマンみたいなロボがロケットパンチ出すしな。  
くろうさぎ 何を言ってるのかね(笑)

8月某日  
種子島にて(嘘)

## 奥付

発行 リーフパーティー  
発行日 2014/8/17  
発行人 くろうさぎ

ホームページアドレス  
<http://www.ob.aitai.ne.jp/~carmin60/>

印刷所 大陽出版様

18歳未満の閲覧禁止・無断転載  
インターネットなどへのアップロード及び公開の禁止



*LeLe!まごま*

Vol. 25